実践から深める
認知症の人とのかかわり方
1

“帰宅願望”って悪いこと？

認知症の人とかかわる中で、さまざまな悩みや迷いが生じるものと思います。そんな時、どのようなことに気をつけるべきなのでしょうか。本連載では、エピソードなども盛り込みながら、認知症の人とのかかわり方を探ります。

文●グループホームリブ花見川 ホーム長　梅本 聡

法文には「あるべき姿」を示している

社サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。

正直、法文というものは小難しい言葉が並び、読んでもチンプンカンプン、それゆえ「読む気にもなれない代物だ」……。そう思う人が多いのではないでしょうか。

でもこれらの法文は、ぜひ一度は目をとおしてもらいたいものです。なぜなら、私たち支援する側の「支援のあるべき姿」と、その支援を実践していくことで行き着きたい「認知症の状態にある人たちの生きる姿」を描くことができるからです。

その姿を描く視点がこれらの文章にあることを、皆さんにお伝えしておきたいと思います。

心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように支援するものとして、良質かつ適切なものでなければならない。

・介護保険法　第1条（目的）
この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。

「帰りたい」は当たり前の欲求

林田さんの言動は、いわゆる〝帰宅願望〟です。こうした時、「帰宅願望という問題行動を解決するためのかかわり方を見つけたい」と考えたあなたは危険です！

それは「家に帰る」という思考と欲求をもつ林田さんは、人として正しく、当たり前だからです。人は何らかの目的こそが問題なのです。あなただって仕事が終われば、家を出た目的は終了ということで、家に帰るはずなのに……。

考えられる支援とは？

ごもっともなことを言う林田さんですが、家庭の事情を踏まえると、林田さんの「家に帰る」という欲求は叶えられないのが現実です。さらに「家に帰るモード」になっている

グループホームに入居している林田さん（仮名、91歳、女性）。自分自身はグループホームに入居しているとは思っておらず、デイサービスで老人クラブに来ているのだと思っています。しかし、日暮れても一向に迎えのバスは来ないし、誰一人として帰ろうとしません。夕刻になると「家に帰りたいんですが」「今日は泊まりですか」と職員に尋ねてきます。

林田さん「皆さん（他の利用者）も泊まりですか」

職員「皆さんも泊まりです」

すると、困ったなぁという表情をする林田さん。それを見て

さん泊まりですから、林田さんも泊まっていったらどうで